

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 119 号

2011年6月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：西原 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—5月22日（日）宇部環境コミュニティ総会 ヒストリア宇部にて

—6月05日（日）本日は16名の参加者で活動を行いました。

18日の田植え準備のため田んぼ周囲の草刈り、駐車場の草刈り、エコアップとして湿地帯の黄菖蒲の引き抜き等を実施しました。

—6月18日（土）第3回親子自然観察会「田植え」

本日は大雨も降らず田植え日よりとなり無事1年ぶりの田植えが終わりました。

今年は二俣瀬子ども会41名、(児童33名、保護者8名)・親子自然観察会35名(保護者会員15名含む)と会員18名また浮田宇部環境コミュニティ会長・河崎市議の参加を得、又ベトナム男性とタイ女性の留学生等老若男女総勢98名で田植えのイベントを行いました。

秋の稲刈りや収穫祭(餅つき)が楽しみです、今から一生懸命稲を育てる事も肝心です。頑張りましょう

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎行事

—6月26日（日）福川こどもクラブ

—7月02日（土）維持活動(草刈・エコアップ)

午後：宇部市地球温暖化対策ネットワーク総会、参加 5名

—7月16日（土）親子自然観察会（田んぼの生き物）

一部、須賀河内川の葦の刈り取り

—7月23日（土）フジときららネットによるこどもエコクラブ

—7月30日（土）特別活動 田んぼの除草

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

ノートの記載はありませんので、今月はありません

4. 会員の声 「蛍の光」 （ 中本 亜矢子 記 ）

毎年、6月の初め頃、原田さんの蛍情報を頼りに、ビオトープに蛍を見に行っている。今年も6月5日（日）の21時ごろ、現地に行ってみた。

所謂メジャーな蛍の名所と違って、ここは知る人ぞ知る穴場的スポット。当日その時間、来訪者は私たちだけであった。数匹の蛍が遠目にも飛んでいるのを確認しながら、電燈ひとつないまっくらな夜道をビオトープに向かって歩いた。知らない場所ならとても怖くて歩けないが、勝手知ったる道なので物怖じもせず、ズンズンと奥へ進んでいった。

ビオトープの柿の木あたりまで来ると、池のうへ全体に、蛍が優雅に飛んでいた。ここ数年私が見たなかでは一番かと思えるほど、あちらでもこちらでも小さな光が点滅し、闇のなかで、光の軌道を描いていた。

近くに飛んできた一匹をそっと捕まえてみた。合わせた両手の隙間から毀れる光は驚くほど明るくて、「源氏物語」の一場面を思い起こさせた。光源氏が思いを寄せている女性の気を引こうと、暗闇の中でたくさんの蛍を一度にパッと放ったら、蛍の光でその女性の顔が照らし出されたという場面。そういえば、昔は蛍の光で本を読んだとかいう話もきいたことがあるが、そんな話もあるくらい、蛍の光は明るいものなのだ。

こんなに小さな虫が、それほどの明るい光を放つこと自体に、生命の神秘を感じずにはいられない。

5. 親子自然観察会「田植え」(6月18日、子供20名、保護者15名、会員18名)(西原記)

昨年は稲作を行なわなかったの、一年ぶりの田植えとなった。二俣瀬子供会の子供33名と保護者と小学校の先生に山大的海外からの留学生2名も交えて、総勢98名が田植えを行なった。

朝は少し霧雨も残っていたが、そのうちに止んで、とても素晴らしい田植え日和となった。一列にロープの前に並ぶと、子供たちで一杯となり、大人が入りこむ隙間もないほどであった。原田副会長の植え方の説明で、一箇所にも苗を3～4本摘まんで植えると教えてあったが、6～8本も植える子供もいて、最後には苗が不足することとなった。あるだけの苗を植え終えたのは午前11時頃であった。

初めて田んぼに入った子、途中で飽きて泥遊びをする子、最後まで一所懸命に頑張る子とそれぞれの子供たちの様子を見ていると、感心するやら、呆れるやら、いろいろと感じてしまう。子供たちが帰った後に、別の苗を持って来られ、最後まで会員の手で植えられた。またこれから、補植など地元の方たちに面倒を見てもらうことが多くあると思いますが、稲作の大変さは街の人々には分からないと思っています。地元の方に感謝です。



6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（37）グンバイトンボ（モノサシトンボ科グンバイトンボ属）

Platycnemis foliacea sasakii Asahina

モノサシトンボにそっくりですがモノサシトンボ科3属7種のうち一番小さく、後肢が真っ白な軍配上に変形しているの見分けが簡単にできると思います。日本の特産亜種で関東以西の本州と四国，九州に分布します。ただし宮城県より1産地が知られ，中国北部にシナグンバイトンボ（基亜種）がいるようです。

きれいな水を好みゆるやかな流れでツルヨシなどの水生植物の繁茂する水辺に生息するとされていますが，美東町の山間部の池で繁殖する本種（図-1）も確認しています。ビオトープでは須賀河内川の中にもわりと多く生息していますし厚東川にも水辺で多く見られます。

羽化は5月より始まり成虫は9月ごろまで見られます。レッドデータ種として環境省，山口県は指定（絶滅危惧Ⅱ類）していますが，「山口むしの会」の調査では厚東川をはじめ各市町村の河川や支流でたくさんの生息地や生息数が発見されています。しかし，厚東川上流の秋芳町嘉万の大生息地が河川工事のために激減いたしました。他県では生息域も局地的であり多くないようですが，幸いにも山口県はまだ多く見られますので，大切にしてくださいと思います。



グンバイトンボ ♂



グンバイトンボ ♀

（図-1）ため池で連結産卵する本種

引用・参考文献

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊，1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 102～103pp. 東海大学出版会，東京.

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

退会者のお知らせ：中村恭子会員

創設時より県健康福祉センターでビオトープ立上げに関与され、そのまま会員となって頂き、県とのつなぎ役として、又会員としての維持活動にも努力されてきました。一時は2年間の東京勤務をされ、その後再活動されておりましたが、この一年間体調がおもわしくなく、退会を要望されました。皆様によろしくとのことでした。

8. 編集後記

二俣瀬ビオトープの活動に参加させて頂くのは別に、住まいのある周南市で、福川子どもクラブという会の活動を細々ながら行っています。現在は年間8回で、近隣の子ども達と海や山に行って遊んでいます。毎年、「来年度もするの??できるの…??」と一緒にいる主人と話しながら、なんとか今年、無事に6年目を迎えることができました。これもボランティアで手伝ってくださる方々と、また、色々な方々に講師としてお世話になるのですが、皆さんが本当に快く引き受け、手間をかけ準備をしてうちの子ども達に対応してくださるおかげで、とてもありがたく感謝しています。ここ数年、二俣瀬ビオトープにも伺い、会の皆さんには本当に、大変お世話になっています。今年も近日伺う予定で、子ども達もとても楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

（大野 靖子 記）